阪口要教授追悼号に寄せて

阪口要先生は，新年度を迎える直前の2012年３月21日，入院先の病院で急逝された。まさに突然の訃報であった。

ここに先生を追悼する『マネジメント研究』の特別号を刊行するにあたり，広島大学大学院社会科学研究科マネジメント専攻及びマネジメント学会を代表して哀悼の意を表したいと思う。

先生は，1948年11月９日にお生まれになり，兵庫県立尼崎高等学校をご卒業後，ただちに，神戸大学経営学部経営学科に入学された。同大学をご卒業後は，引き続き神戸大学大学院経営学研究科会計学専攻修士課程，博士課程へと進まれた。そして，1974年４月に広島大学政経学部の助手として研究者の道を歩まれることとなった。その後，1976年４月に講師，1980年４月に助教授，1989年４月に教授となられた。ご専門は，ドイツ会計学であり，研究のために1977年，1985年，1989年と三度にわたり，ドイツ連邦共和国を訪問されている。そして，1993年10月には，母校の神戸大学から，「ドイツ部分原価計算システムの研究」で博士の学位を授与された。また，先生は教育熱心であり，研究者も多く輩出し，修了生は社会の様々な組織で活躍している。さらに，県立広島大学，広島経済大学，広島修道大学などの非常勤講師，放送大学の客員教授として，地域における教育活動にも携われ，財団法人ひろしま産業振興機構をはじめとする各種委員会の委員として公職にも就かれた。

しかしながら，先生の研究者及び教育者としての人生の主たる舞台は広島大学にこそあったのであり，同時に学内行政にも敏腕を振るうという，研究者及び教育者として誠に希有な存在であった。即ち，経済学部付属地域経済研究センター次長，経済学部夜間学部主事，大学評議員，学長補佐，経済学部長，社会科学研究科長，学長補佐（会計担当）などを歴任されるとともに，2000年４月のマネジメント専攻設立には当初より深く関与された。とりわけ，マネジメント専攻にあっては，優れた研究者，教育者として，さらに学内行政にも精通した重鎮として，マネジメント専攻のあるべき姿，方向性について常に貴重なご意見を述べられた。それは，まさに同僚一同が尊敬する，そして，憧れる先生像そのものであった。

訃報には，ただただ驚くばかりであったが，マネジメント学会は，ただちに編集委員会を組織し，追悼号の発行を計画した。まず，神戸大学の小林哲夫名誉教授には，阪口先生との思い出を一文として記していただいた。そして，OB，院生をはじめ，先生と縁のある多くの方々から原稿が寄せられ，論文９本，研究ノート３本，論説２本をもって追悼号とすることができた。

先生におかれては，定年退職を控え，最後の１年をどのように送られるのか，総決算としての「最終講義」で何を話されるのか，すでに頭の中では準備がされていたことだろう。また，今後の研究についても計画をお持ちだったと思われる。今となって，われわれは，それを知ることはできない。

しかし，先生が広島大学，政経学部，経済学部，経済学研究科，社会科学研究科，そして，マネジメント専攻及びマネジメント学会の発展にきわめて大きな貢献を果たされたことは，誰もが知るところであり，そのご功績を讃えるとともに，深く感謝したいと思う。そして，そのご遺志を引き継ぐことをここであらためて誓い，先生のご冥福を心からお祈り申し上げたいと思う。

広島大学マネジメント学会長
村　松　潤　一